

今月の
テーマ

金融リテラシー “生命保険編”

生命保険の本題に入る前に、まずは保険における基本を改めて考えてみよう。

身に付けるべき「金融リテラシー」の分野を大別すると、「家計管理」、「生活設計」、「金融知識」、そして「外部の知見の適切な活用」とに分けられる。今回は「金融知識」としての保険を考える訳だが、この保険における“最低限身に着けるべき知識”として、～自分自身が備えるべきリスクの種類や内容を理解し、それに応じた対応(リスク削減、保険加入等)を行うことができることへとしているが、皆さんはこれで理解いただけただろうか…。

言葉上では何となくわかったとしても、自身の生活環境の中にどんなリスクが存在しているのかを把握し、それに対する的確な対策を講じている方がどれ程いるだろうか…? それぞれのリスクは、家族構成や生活環境、職業、年収によっても当然に異なってくる訳で、当然に保険の必要性自体も異なってくるのは当然なのだが、「リ

スクの把握」という大前提が理解されないまま、“保険加入ありき”になっているような気がしてならない…。リスクをカバーしきれていなければ家計の崩壊につながりかねないし、過大な保険加入は多額の予算を無駄にしてしまうかもしれない。勧められるがままの保険加入にはご注意いただきたい。

ここで言う「金融リテラシー」は、保険加入だけを言っているわけではなく、“先ずはリスクそのものを削減する”という事が前提だ。その対応があって、なお許容できないリスクに対して保険加入という流れになる。生命保険文化センターの令和元年度「生活保障に関する調査」によると、生命保険・生命共済などに加入している人は、男性では81.1%、女性では82.9%にも上る。家計に占める支出割合も高いだけに、しっかりとリテラシーを身に付けたいものだ。

生活 知恵袋

今月も
つぶやき
ます!

つぶやき
がんちゃん

齋藤 廣勝

(さいとう ひろかつ)

株式会社

トータルライフサポート代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファインシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

生命保険加入の現状

80%を超える方が加入する生命保険、負担する保険料も決して少くはないはずだ。しかし、自分の加入する生命保険の内容を充分に理解していないという現実もあるようだ。先に書いたように、生命保険の加入は、先ずは存在するリスクのチェックが必要であるのに、そのプロセスが抜け落ちているような気がしてならない。これまで、様々なリテラシーを取り上げてきたが、生命保険への加入におけるリテラシーレベルは決して高くなないと見える。

時々、生命保険料はどう位が適正かと聞かれることがあるが、この問には2つ返事の回答という訳にはいかない。収入の何%とか、日々がこれ位だと一定のものさしさなど存在しないからだ。また死亡保険金額はどれ位必要かと聞かれることもあるが、これもまた金額の適正など存在しない。保険料にしても保険金額にしても、それぞれの世帯の家族構成や年齢、職業、年収、死亡退職金、資産・負債状況、生活環境などなどを背景としたものでなければならないのだが、現実は…。

生命保険の基礎

そもそも生命保険の目的は、わたしたちの生活の中に潜むさまざまなリスクから、自身の生活や家族を守るために大切な備えである。死亡や病気、ケガ、就業不能、介護など予期しない出来事から、

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談
メニュー

- ✓ 家計の総合診断(ライフプラン)
- ✓ 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- ✓ 住宅取得、住宅ローンの見直し
- ✓ 子どもの教育資金計画
- ✓ 年金・老後資金計画

相談料は
無料です!!

TLS

total life support

募集代理店

株式会社

トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間／9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)

●定休日／水曜日

TEL 018-827-7611

Fax 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでも
ご覧いただけます。

経済的な負担を補填したり、安定した生活を継続するために重要なものと位置付けられる。この

ような、いつ起きるかわからないけれども、不測の事態に備えておくのが生命保険なのだ。家族に何事もなく健康な日々を送っている間

は、保険の必要性は感じにくいだろうが、事態が起つてからでは遅いのは言うまでもない。

次の基礎用語は、今更と思われる方もあるだろうが、この用語すら理解されておらず、保険料と保険金が混同されたりしている方もいるので改めて確認していただきたい。

【基礎用語】

保険契約者	生命保険会社と保険契約を結び、契約上のさまざまな権利(契約内容変更などの請求権)と義務(保険料の支払義務)を持つ人。
被保険者	死亡・高度障害・病気・ケガなどが保険の対象となっている人。
受取人	保険金・給付金・年金などを受け取る人。
保険料	契約者が保障を得る対価として生命保険会社に払い込むお金。
保険金	被保険者が死亡・高度障害状態のとき、または満期まで生存したときに生命保険会社から受取人に支払われるお金。
給付金	被保険者が入院したときや手術をしたときなどに、生命保険会社から受取人に支払われるお金。

9 利率変動型積立終身保険
10 こども保険・学資保険

11 資蓄保険
12 個人年金保険

13 変額保険
14 介護保険

15 主契約の主なものをあげてみたが、これらは主契約としてだけでなく特約として加入できるものも多い。保険会社によつても取り扱いが異なるため、確認が必要だ。

また、これらの中には円建ての他、外貨建ての商品も存在する。どれを選ぶかは、保険選びをするのではなく、先に書いたようにまずは、それぞの環境におけるリスクの洗い出しから始めねばならない。

時々、良い保険がありましたら紹介してください”と言われることもあるが、そもそも“良い保険”など存在しておらず、それぞの世帯のリスクに沿った選択組み合わせこそが、“良い保障”と言えるのかもしれない。今月号では、終身保険と定期保険の違いについて解説しよう。

保険料は高くなる。

終身保険とは



定期保険付終身保険(更新型)

新型の場合では、当初の定期保険の期間を短くすることで保険料を抑えることができる。この更新型タイプの場合には定期保険だけではなく医療保険などの他の特約も更新型になっているのが殆どで、その上昇幅は保険者の年齢上昇に合わせて後半に行くほど大きくなつていく。保障金額を

変えずに更新する場合、保険料は更新の都度高くなるため、保障金額を下げたり、更新をしないことも可能だが、保険料のアップで必要保障そのものを維持できないと

いう事態だけは避けたいものだ。

定期保険付終身保険の名称の通り、主契約である終身保険に定期保険を加えたものであり、保険料も一定で変わらない。定期保険の部分は主契約の払込期間の終了に合わせて保障も終了する。



【主契約の保険種類】

- 1 終身保険
- 2 定期保険
- 3 収入保障保険
- 4 生存給付金付定期保険
- 5 養老保険
- 6 特定疾病保険
- 7 医療保険
- 8 ガン保険

定期保険(定額型)とは

定期保険とは、あらかじめ契約時に決められた保険期間中に被保険者が死亡または所定の高度障害状態になったときに保険金を受け取れる保険のこと。貯蓄性はないため満期保険金はない。割安な保険料で、債務整理を目的とするなどの「定期間だけ保障を充実させたい人」などにはおすすめだが、更新をするとその都度保

定期保険付終身保険



来月号は

引き続き生命保険における金融リテラシーPart2を考えよう。